



国際ロータリー第2610地区 南砺ロータリークラブ
クラブ会報



なんと

NO. 2148

URL <http://www.nanto-rc.jp> E-mail office@nanto-rc.jp

例会日/火曜日 12:30点鐘 例会場/富山銀行福光支店4階 ◆事務局/富山県南砺市福光7336-4 ふくみつ光房内 ☎ 0763-53-1333 ☎ 53-1334

撮影 写真同好会 木本修一会員



「まだまだ」 福島県南相馬にて

第2208回例会 平成25年 1月15日(火)曇

- ◆点鐘 12:30 中田 修会長
- ◆司会 永井則平 SAA
- ◆ソング 「奉仕の理想」
- ◆ゲスト 米山奨学生 何穎瑜さん



「就職も決まっ
す」 卒論に頑張っています

◆会長の時間 中田 修会長

先週、箱根大学駅伝の話をして頂きましたが、この寒い時期に50⁺マラソンという隠れたレースが毎年続けられています。その名は札幌国際スキーマラソン大会、今年は2月2・3日に第33回大会が開催される。2日(土)夕方、開会式つまり前夜祭で飲酒を伴ったパーティーが市内のホテルでおこなわれる。内容は50⁺、25⁺、10⁺、5⁺、3⁺のレースがあります。50⁺マラソンには規定があり、年齢、試合当日19歳以上、25⁺地点で2時間30分以内で通過の事。ゴールの門限は6時間30分以内です。

さて、私は1986年、27年前、4歳年上の先輩と飲んだ勢いで先輩の50歳記念にレースに参加しようと話しかけた。お互い引くに引けず参加することになった。ただし、言い訳ではないが彼は数え年の50歳なので翌年再チャレンジする事とし、25⁺レースに参加した。この年の記録は2時間3分25秒でした。

1987年、再度、チャレンジ。この年は年齢からくる体力の衰えとプレッシャーで前夜祭のお酒はほろ苦い酒であったと今でも記憶している。レースは8時50分スタート、20キロ地点を過ぎると5⁺に毎に給水、軽食場が設けてある。陸上マラソンの給水と違い、寿し、お餅、サンドイッチ、バナナやみかん、コーヒーなどピクニック気分。実際は体力と心にゆとりは無かったです。30キロ過ぎた頃、太ももの痙攣、倒れこんでいると巡回のスノーモービルに乗らないかとの問いかけ。本音は乗りたいのだが、ここまで来たら意地でもゴールまで、と、時計を気にしながら自分との戦いであった。お陰様で6時間3分8秒ゴール。我が人生も過酷なレースであるが、何時か明るいゴールが見える事に期待して今日も走っています。

◆幹事報告 渡邊秀一幹事

- ①小矢部中RCより例会変更の案内。
- ②ガバナー月信1月号受領。
- ③わらび学園より「園便り」拝受。
- ④日本ロータリー親睦ゴルフ全国大会(沖縄大会)の案内。
- ⑤H2~H3年時交換学生ニコル・リン・フレイナーさんが来日され、福光へ来られました。

◆会員誕生祝

- 18日岩木貴之君
- 21日尾山裕和君
- 27日松本敏博君
- 30日渡邊秀一君



◆委員会・同好会報告

○雑誌広報

古瀬喜八郎副委員長

「友」1月号の紹介(これから6ヶ月間私が担当します)
・RI会長の田中作次氏がロータリーのバッジをいつも着けようと呼びかけておられます。-自責と心構えが変る。
・「友」60年のあゆみ→この10年を振り返って
・特集 「ロータリーの目的」と「RI戦略計画の理念」は是非とも読んで下さい。19P。その他色々紹介があった。

○国際奉仕

森 啓一副委員長

23年前交換留学生として受け入れをしたニコル・リン・フレイナーさん(米)と友人が1/10から森田光正元会員宅に滞在されていました。私も当時のホストファミリーでしたので懐かしくあれこれと話しました。現在大学で教鞭をとっているそうで、学会があり、来日した。との事です。「安倍政権になって、日米関係ももっと良くなるでしょう。クラブの皆さんに宜しくお伝え下さい」と笑顔で帰っていきました



17才の時 ←

40才の今 →



Nicole&Jen na

☆ニコニコボックス

山田 勉委員長

- 中田修君 孫娘が成人になりました。
- 渡辺君 誕生祝いありがとうございます。
- 荒井君 ロータリー情報フォーラム担当します。よろしく。
- 桶谷君 後期もクラブ奉仕9委員会よろしくお願ひします。
- 上坂君 新しい年を迎え出席委員会も半期を終りました、下半期も皆様の協力戴き上位出席率をお願いします。
- 船藤君 初孫が生まれました。
- 松本敏君 6人目の孫に恵まれました。有難うございます。
- 河合君 この一週間、御正忌報恩講の時期、本山で法要が勤まっています。自坊も今日御正忌報恩講を勤めますので早退します。
- 細川君 二科展富山支部展で奨励賞に入選しました。写真愛好会の皆様に感謝。
- 松村君 今日から「友」の紹介を古瀬さんをお願いしました。期待します。
- 藤田君 都合により早退します。
- 尾山君 先週久しぶりに城端線に乗車。外からドアの開け方がわからず、内にいた女子学生がボタン押してドア開けてくれました。ありがとう！！
- 山田勉君 今年も元気でがんばります！

◆出席報告

上坂武喜委員長

会員数	1月15日出席率	12月18日の修正
55 (免除0)	83.63% (欠9)	89.29% (欠61メーク0)

本日のプログラム IM準備委員会

1月22日(火) 第2209回

宮川功 IM実行委員長担当

皆様、こんにちは！



先ほど中田会長が続けておられるマラソン、古瀬さんの「ロータリーの友」紹介の中、ポリオ撲滅サイクリング、サロマ湖100kmマラソンの話があった。私もマラソンの話に触れてみたい。フォーラムの意味は「公開討論の場」という事になるが、昨日の成人式、二十日正月という言葉も聞こえてくる。堅苦しいのは後日に回して、ソフトに正月気分で行きたいと思う。

その前に今朝、インターネットで時事通信に中国人民解放軍総参謀部が2013年の軍事訓練に関して「戦争にしっかり備えよ」と全軍に指示しているという事が載っていた。1/14付、軍機関紙・解放軍報が一面トップで伝えたということである。習近平・中央軍事委員会主席（共産党総書記）の重要指示に基づいて作成されたという事である。尖閣諸島、南シナ海を念頭に、軍事衝突も想定して、軍の準備を加速させる狙いのようだが、背景には習氏自身の求心力を高め、主導権を取り返そうとしている、という見方もある。先ほど、森パスト会長から、交換留学生が安倍さんになって日本と仲良くなれる、ということも是非早く実現できればと思うが、関係改善には、まだ時間がかかるということなのだろう。

ソフトな話に移ろう。

今年の正月も、箱根大学駅伝の応援にいった。日体大は昨年、19/20位、どん尻でシード権も剥奪されるという屈辱を味わった。昨年、1年間は1からやり直し、予選から取りこぼしの出来ない断崖絶壁の中にあっただ。が見事に立ち直り総合優勝を飾った。際立って力のある選手はいないが、チームの総合力で勝ち取った。誠に立派といわざるを得ない。

南砺市から、中央大の選手として、3区を須河君（3年利賀出身）、8区を永井君（2年蓑谷出身）が出場、永井君にいたっては、8区を区間1位のタイムで大奮闘した。中央大は棄権していたため順位も、記録も残らず幻に終わった。残念極まりない。中央大は優勝回数が一番多い名門である。来年は大いに期待、もしかすると須河君、永井君も出て、今年の日体大のように総合優勝するかもしれない。皆さんも箱根大学駅伝に応援に行かれませんか、箱根温泉のお湯も最高です。

岩木会員の息子さんは、明治と法政で、ご自身校友会の役員もされており、箱根に応援に行かなくてはならない立場とか。

箱根大学駅伝は今年が第89回、来年は第90回の記念大会。日本がオリンピックに初参加したのは1912年ストックホルムの大会である。クーベルタン男爵が東京高師の加納治五郎校長に働きかけて実現した。加納と師弟関係の金栗四三がマラソン選手として出場したが、途中棄権に終わった。日本がオリンピックで強くなるため、金栗が音頭をとり箱根大学駅伝が創設された。第1回は1920年（大正9年）東京高師、明治、早稲田、慶応の4校が出場。当時は、狼が出るとか、手負いの猪が出るなどの噂のあった山道である。伴走者は松明をもって走った。スタートは昼1時、箱根に差し掛かるのは午後6時ころ、周りは完全に暗くなっていたという。当初、各大学とも勝つために手段を選ばなかったらしい。足の速い人力車の車夫を給料を払って雇い、学生に化けさせ、選手として出場させた。インチキでコース外の間道を走り草や、カヤ、いばらで向う脛を傷だらけにしたり、人目のつかぬところで

選手を自動車に乗せて何キロもブツ飛ばし、また走るキセル駅伝もあった。一番インチキの多かったのは日大だったらしい。

1925年（大正14年）第6回大会、3区の走者は学生に化けた人力車夫、たすきを受け取ると明大、慶大、日本歯科大、東京高師を血祭りにあげ、トップの中央大に肉薄した。日大が来たぞ、大歓声を聞いて、4区の走者は、まさか自分のチームが、こんなに早く来るなんて考えてもみなかったのでびっくり、さらに、同じユニホームを着た見知らぬ男が、自分めがけて襷を渡してきたのに2度びっくり。あとで、抜かれた学校の調査で、車夫の替え玉がばれ、翌年出場停止となった。

等々、天真爛漫とでもいおうか、大らかで大人のエピソードが多い。

現在は、正月の一大イベント、5区の山の中でもファン、応援者がびっしりである。私は、毎年同じ5区で応援している。昨年まで3年間、東洋大学柏原竜二がそこを1位で駆け抜け、正に山の神の走りであった。私自身、血湧き、肉踊るの状態になり、妖精のようなエネルギーが身体中に入りこんでくる。1年間分のエネルギー元であるが、中毒にかかったのかも知れない。

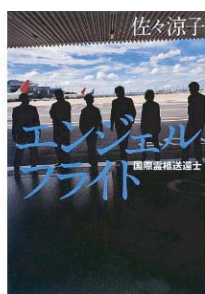
時間が来るので駅伝の話はこの辺にして、ロータリーらしい事を少しお話したい。皆様ご存知のように、今月は「ロータリー理解推進月間」であるが、他に「追悼記念週間」がある。1/27日（ポールハリス命日）を含む週を、物故ロータリアンの冥福を祈り、生前の貢献を記念する週間として、1990年度にRI理事会が設定した。私たちは、記念行事があるとき等は、物故ロータリアンを追悼する事があるが、追悼記念週間として1年に1度取り上げた事はないのではなからうか。

年に1回、先達に敬意を表する機会があってもいいのではないだろうか。

会場の時計の秒針が異常に早くぐるぐる廻っているらしい。私に早くやめろ、ということかもしれないので、これで終わりにさせていただきます。

最近、感銘を受けた書籍を紹介して終わりとしたい。

1. 「永遠の0（ゼロ）」 百田尚樹
2. 「エンジェルフライト」 霊枢送還士 佐々涼子
3. 「箱根駅伝を歩く」 泉 麻人



価格： ¥ 1,575



価格： ¥ 1,575

次回の予定 1月29日(火) 第2210回
クラブ協議会（中間報告）

中田 修会長担当